

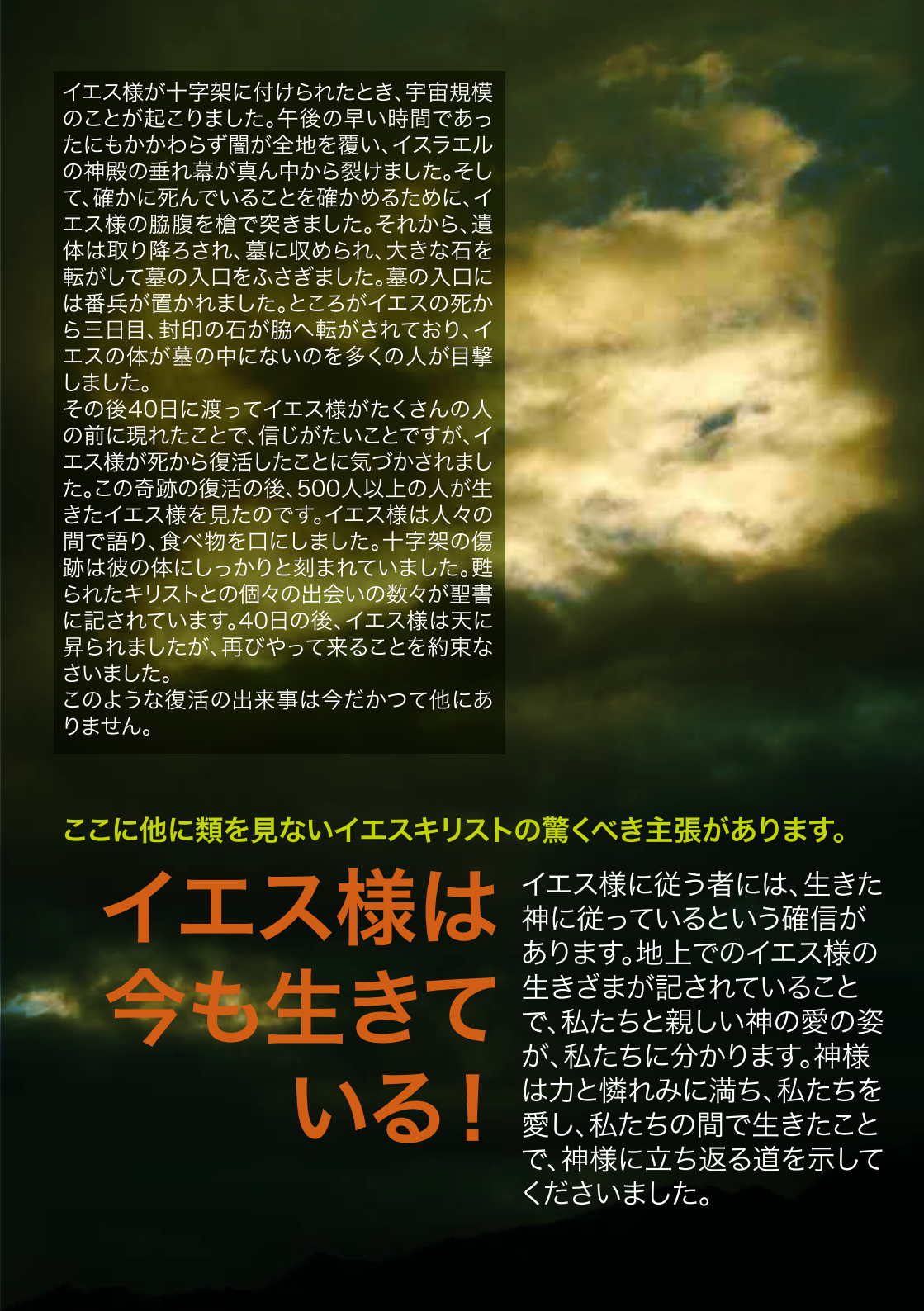
イエス様
つて誰



イエス様のことを道徳上の先生だとか、偉大な預言者だとか、或いは神の化身だとか言う人が大勢います。ニューエイジ哲学ではイエス様を宇宙の超人、星の子としていますし、理由もなくイエス様の名前をののしりの言葉に使ったりする人もいます。

イエス様は2000年前に処女から生まれました。ローマの皇帝アウグストゥスから全領土の住民に登録せよとの勅令が出た年に、ベツレヘムで生まれたのです。これは、キリニウスがシリア州の総督であった時のことです。

イエス様はナザレで育ちました。30歳のとき、働きを始め、神の国の到来を告げ知らせるためにイスラエル全土を巡りました。彼は罪無き生き方をし、人々に哀れみを示したり、病人を癒したり、様々な奇跡を起こしたりしました。そして3年ほどしてエルサレムで十字架につけられました。責められるべき犯罪は何もないまま、十字架上で死んだのですから、それは驚くべきことでした。その当時の宗教的、政治的指導者の立場にあったユダヤ人たちは、自分が神であると宣言して神を冒涇したとしてイエス様を責めたのです。当時のローマ総督ポンテオ・ピラトはイエス様を十字架につけるために引き渡しましたが、そのピラトでさえ、犯罪に当たる罪をイエス様のうちに見出せなかったのです。



イエス様が十字架に付けられたとき、宇宙規模のことが起こりました。午後の早い時間であったにもかかわらず闇が全地を覆い、イスラエルの神殿の垂れ幕が真ん中から裂けました。そして、確かに死んでいることを確かめるために、イエス様の脇腹を槍で突きました。それから、遺体は取り降ろされ、墓に収められ、大きな石を転がして墓の入口をふさぎました。墓の入口には番兵が置かれました。ところがイエスの死から三日目、封印の石が脇へ転がされており、イエスの体が墓の中にないのを多くの人が目撃しました。

その後40日に渡ってイエス様がたくさんの人の前に現れたことで、信じがたいことですが、イエス様が死から復活したことに気づかされました。この奇跡の復活の後、500人以上の人が生きたイエス様を見たのです。イエス様は人々の間で語り、食べ物を口にしました。十字架の傷跡は彼の体にしっかりと刻まれていました。甦られたキリストとの個々の出会いの数々が聖書に記されています。40日の後、イエス様は天に昇られましたが、再びやって来ることを約束なさいました。

このような復活の出来事は今だかつて他にありません。

ここに他に類を見ないイエスキリストの驚くべき主張があります。

イエス様は 今も生きて いる！

イエス様に従う者には、生きた神に従っているという確信があります。地上でのイエス様の生きざまが記されていることで、私たちと親しい神の愛の姿が、私たちに分かります。神様は力と憐れみに満ち、私たちを愛し、私たちの間で生きたことで、神様に立ち返る道を示してくださいました。

クリスマスには、イエスキリストの誕生にまつわる、あっと驚く出来事を思い出します。

天の大軍が地の人に現れ、神を賛美してこう言いました。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心にかなう人にあれ。」

東方の博士と呼ばれる学者たちは、「その子を探し出し彼を礼拝する」という神のユダヤ人に対する預言の言葉を理解して、ペルシア(今日のイラン)から来ました。こうして2800年以上も前の預言が成就しました。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。」

(イザヤ書7章14節)これは神、共にいます、という意味である。

使徒ヨハネは神であるイエス様が人のかたちをして来られたことを以下のように記しています。

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。... 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。(ヨハネによる福音書1章1節～14節)

イエスは

何をしたの？



イエス様が神様だったら、この地でイエス様は
何をしたのでしょうか。

イエス様はこ の地上で二つ の目的があり ました。

1 キリストは人類を救うために来ました。

イエス様はこの世の罪の代償を支払うために十字架の上で死ぬことを拒みませんでした。だから、イエス様が十字架上で死んで成し遂げたことを受け入れ、イエス様を心から信頼する者は誰でも神の赦しを受け、神の国に入ることができるのです。

神様は天地を創造したとき、人を神との交わりのうちに生きるように創られ、神の創造したものを味わい、この地を支配するようにされました。ところが、人は神に反抗することを選び、その結果、罪がこの世に入り込みました。罪は、人が神に反抗してなした最初の大きな過ちであり、それは死の報いに値します。

人類が自分たちの力でこの罪を償う道は一つもありません。どんなによい行いや宗教的行為を積んだとしても、私たち人間が犯した過ちを消し去ることはできないのです。深い井戸に落ちた人が、そこから抜け出そうとしている図を想像してみてください。自分で這い上がることは不可能です。しかし、神様はその井戸に降りてきてその人を担ぎ出すことをなされたのです。神の計画は、神ご自身がこの世にイエス様としてやって来て、罪のない受け入れられる犠牲となり、人類に代わって罪の報いを支払うことでした。

イエス様は国を始めるために来ました。

イエス様の国はイエス様がやがて戻ってこられるときに完全に実現します。その国は彼に忠実に従ってきた全ての者たちで満たされます。

一世紀当時のユダヤ人は「神の国」の意味をローマの支配下から解放された独立ユダヤ人国家のことだと理解していました。ユダヤ人たちは神の介入による偉大なユダヤ人国家が再建されるのだと思っていました。けれども神様の目的はそうではありませんでした。実際にはユダヤ人が大変誇りとしていたエルサレムの宮は、イエスの復活後40年も経たないうちに破壊され、ユダヤ人はその後2000年に渡り、世界中に散らされることとなりました。

イエス様の御国は皆が期待していたようなものではありませんでした。彼はピラトに「わたしの国はこの世のものではない。」と言いました。イエス様はユダヤ人のある指導者に「神の国は多くの人には見えない。その国を経験し、その国に入るためには、人は霊から新しく生まれなければならない。」と説き明かしました。つまり、人はキリストを自分の救い主と信じ、イエス様を主として従う必要があるのです。(ヨハネによる福音書3章1節～21節)

この国には今日既にたくさんの民がいます。私たちがイエス様とイエス様の語られたことを信じるなら、その国に加えられるのです。「神はわたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださった。」(コロサイ人への手紙1章13節)

神の国は、私たちが国と聞いて連想するような物理的領土ではありません。イエス様は神の国は劇的に発展するものではないことを教えています。種は静かに成長するのです。小さなからし種が植えられたり、パン種が密かに活動するように、この国は始まります。しかし種は静かに成長し、時が来ると豊かな実りを見ることになります。からし種が巨大な木となり空の鳥が来てその枝に宿るほどになったり、またイースト菌がパン生地全体を膨らませるようになります。(マタイによる福音書13章31節～32節)

神の国が栄光で全地を満たすときが来ます。これは人の努力によらず、ただ神の意志により神の定められた時にであり、この時がイエス様の再び来られるときです。

私たちは栄光の神の国が完成するときに心待ちにしながら、今現在できることがあります。イエス様を信じて御国の完成を待ち望む者は「... この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。」(ペテロの第二の手紙3章14節)

私たちは神の国の真理と、イエス様を神の国に通じる唯一の道と受け入れて罪を赦していただき、永遠の命をいただくように、一人でも多くの人に伝えます。

イエス様は本当に死人の うちから甦られたのか？

これは、でっち上げか真実のどちら
かです。

何世紀にも渡って、学者
たちは復活という驚くべ
き主張について研究し、
証拠について検討してき
ました。多くの信じない
人たちは、歴史的証拠を
探った結果、イエスの復
活は起こらなかったと
結論付けました。

トーマス・アーノルド教授

以前、オックスフォードの歴史を専門とする大学教授で有名な「ローマの歴史」の著者としても知られるトーマス・アーノルド教授はこう記しています。「私は長年に渡って過去の歴史を学び、こういった歴史書の著者の証言を調査検討することに注力してきました。そして分かったことは、キリストが死んだ後、死人のうちから甦ったという神が私たちに残された偉大な痕跡ほどに、完全な証拠裏付けのある人類の歴史的事実は他には何一つ見つからない。」

ロード・ダーリン

イギリスの元首席裁判官、ロード・ダーリンはこう記しています。「...このように、積極的証拠、反証、事実に基づいた証拠、間接的証拠など計り知れない圧倒的証拠が存在する中で、復活の話が真実であるという評決を下し損なうような者は世界的に優秀な陪審の中には誰一人としていないはずがない。」

サイモン・グリーンリーフ（1783年～1853年）

アメリカの弁護士であったサイモン・グリーンリーフは「証拠法に関する論文」と題する有名な法律書を書いています。彼はイエスキリストの復活はでっち上げであると信じていました。そして、キリスト教を信じず、クリスチャンを嘲っていたその彼が、自分で書いた法的証拠の法律に関する三つの書簡を取り上げて、キリストの復活にその証拠法を適用するようにとのチャレンジを受けました。グリーンリーフは、復活の「作り話」を世に曝そうと意を決しました。ところが、その証拠を検証した後、彼はイエスキリストの復活はあらゆる歴史の中で最も立証された出来事であるという結論に達しました。そして、「裁判所証拠規則による四伝道者の証言検証」と題した本を書き、その中で、「もしも実際にイエスキリストの死人のうちからの甦りがなかったとすれば、使徒たちがそれを真実だと執拗に断言し続けるなんてあり得なかった。」と強調しています。

イエスはいつ
帰ってくるの？



イエス様は、苦難に遇い、十字架につけられる何日か前に弟子たちに、イエス様が力と栄光のうちにこの地に再び来る前に起こる顕著な出来事について説きあかしました。

神の国が建てられるということは、新しいことではありません。旧約聖書には地上に来るべき神の御国についてたくさんの預言が記されており、ダニエル書は人間の王国や帝国が過去のものとなり、神の支配が全地を覆うときが来ることを伝えています。

「御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地にも。」とイエス様が弟子たちに教えられた祈りを、私たちが日々祈るとき、私たちはその「日」を待ち望んでいるのです。

1 秘術信仰の広がり

魔術的活動が広がり、秘術への関心が驚くほど高まります。例えば悪魔崇拜、魔術、薬物を用いての魔法などで、サイバースペースを用いる場合もあります。(第一テモテへの手紙4章1節～2節、ヨハネの黙示録9章21節)

2 無法の行動が増える

無法の行動が増えます。道徳律の全体的概念がのけられ、よいこと悪いことの絶対的価値観がぼやけてきます。相対的道徳や状況に応じた倫理が時代の流れとなっていきます。(第二テモテ3章1節～5節)

終わりのときが近づき、イエス様がまもなく王として戻って来るといふときの印

3

飢餓、疫病、地震、更に生態系問題の頻発

空気や新鮮な水、海や木の質が目覚しく低下したり、破壊されたりします。その結果、飢饉や病気が多発し地球規模での水不足が起こります。統計を見ると、地震の多発が顕著に見られ、地震は増える一方です。また地球温暖化や海面の上昇が予想されます。(マタイによる福音書24章)

4

戦争—そして戦争の噂

戦争はいつの時代にも人間の計略ですが、その戦争が更に死をもたらす大規模なものとなり、ユーフラテス地域に集中するでしょう。
(ヨハネの黙示録 16章10節～14節)



5

知の爆発と往来の驚異的增加

この預言は紀元前500年に書かれましたが、私たちはまさにこの預言が成就する時代に生きています。
(ダニエル書12章4節)



6

ノアの時代と同様、キリストの再臨の前には倫理性と霊的基準への関心が欠如します。宗教的または哲学的信念のほとんどが物質主義に走るようになります。

人々もそこに向かってすぐに得られる満足感やスリルを求める傾向が強まり、実際に科学技術の進歩によりそれが可能になるでしょう。貧困、飢えの対極に富、豊かさ、浪費が存在するという貧富の差が世界中で深刻化していくでしょう。

(マタイによる福音書24章37節～39節)

7 ユダヤ人のイスラエルへの帰還

これは1917年に始まり1948年5月14日にイスラエル国家が形成されるに至りました。更にエルサレムがイスラエルに1967年に六日間戦争の後、返還されました。(イザヤ書66章8節)国土を所有せずして2,500年もの間自分たちのアイデンティティと生命力を失わなかった民は他にありません。神様は約束を果たしてユダヤ人を彼らが散っていた世界各地から呼び寄せました。そして世界各地からユダヤ人自身の土地に戻っていくのです。

(エゼキエル37章21節～22節)

8

福音が世界中 に伝えられて からキリストが やって来る。

よる福音書24章14節)
テレビ、ラジオ、宣教師たち、聖書の様々な言語への翻訳、そしてインターネットを通して、この預言は成就します。今日世界中の人々がキリストのメッセージを聞くことができます。

天を創造してのべ、地とそれに生ずるものをひらき、その上の民に息を与え、その中を歩む者に霊を与えられる主なる神はこう言われる、「私は主である」
(イザヤ書42章5節～6節)

イエス様が再び 来るとき、

邪悪なもの、地上での神の支配に反抗するものは全て取り除かれるでしょう。イエス様の王位の下、平和の至福千年の支配が始まるでしょう。

神の道と真意が広がり、この地には喜びと平和と正義があるでしょう。

神を愛する者たちに神が用意されたものを未だに誰の目も見ず、誰の耳も聞かず、誰の心も想像に至っていません。

イエス様はあなたに
尋ねています。

あなたは、私を
誰だと言うか



もしかしたら、あなたはシモン・ペテロと同じように答えるかもしれません。

「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」すると、イエスは彼にむかって言われた、「ペテロよ、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」
(マタイによる福音書16章16節～17節)

もし、神様が存在するのかどうか、あなたが決めかねているのであれば

または、今まで神の存在への疑問に対する答えは見つからない、と考えてきたのであれば、この機会にイエスキリストの主張をよく考えてみてください。「もしあなたがたが、一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会うと主は言われる。」(エレミヤ書29章13節～14節)全能の神がこのように貴方に約束してくださっています。

あなたが捜し求めるとき、神様に知恵を与えてくださるようお願いしましょう。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人はとがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」(ヤコブの手紙1章5節～6節)

もし、あなたが神は存在しないと信じているなら、

神様からあなたに宛てたメッセージに目を留めてみてください。

「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。」(詩篇19篇1節)

万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も皆、御子(イエス様)によって造られ、御子のために造られたのである。

彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。
(コロサイ人への手紙1章16節～17節)

「無知の言葉をもって、神の計りごとを暗くするこの者は誰か。あなたは男らしく奮起せよ。わたしはあなたに尋ねる、わたしに答えよ。わたしが地の基をすえた時、あなたは、どこにいたか。もしあなたが知っているなら言え。」(ヨブ記38章～40章参照)

**誰かが神は存在しない
ことを立証するには宇宙を全
体として知らなければならない
と言えます。**

もしあなたが、 人類に対する神 の目的など存在 しない、と信じ ており、

人間には分からないことがたくさんあるものの、人間が全てのものの基準であり、人間の今ある姿も将来の姿も全て人類の手中にあると信じているなら、イエスキリストの復活の事実を吟味すべきです。もし、復活が偽りであるなら、あなたが失うものなど何もありませんし、何も恐れる必要はありません。

しかし、もしイエスキリストの復活が真実であるなら、あなたはこの真実を拒否することになり、その結果あなたは全てのものを失ってしまうことになります。なぜなら、それは今でも貴方を愛してやまず、恵みと哀れみをあなたに注いでおられるイエス様を拒絶することになるからです。けれどもこの愛を受けることができるのは、イエス様が王として戻ってきて、全地に渡る神の国が築かれるときまでです。

「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。」(イザヤ書55章6節)

「生ける神の手に落ちるのは、恐ろしいことである。」(ヘブル人への手紙10章31節)

もしあなたが
既に神様を信
じているので
したら、

あなたはどんなふうに神様を
理解していますか。

「この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。また、何か不足でもしておるかのように、人の手によって仕えられる必要もない。神は、すべての人々に命と息と万物とを与え、また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見い出せるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびひとりから遠く離れておいでになるのではない。」(使徒行伝17章24節～27節)

「言葉はあなたの近くにある。あなたの口にあり、心にある。この言葉とはわたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉である。すなわち、

自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。

なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。」(ローマ人への手紙10章8節～9節)

ST ANDREW'S CATHEDRAL
WELCOME CENTRE

11 St Andrew's Road
Singapore 178959
Tel: +65-63376104
cathedral.org.sg